

『幼稚園・保育所における壁面構成』の事例報告

正岡 さち*・團野 真紀子**

Sachi MASAOKA and Makiko DANNO
A Report on “Wall-Configurations of Kindergarden and Nursery school”

要 旨

幼稚園・保育所の『壁面構成』の実態を調べることにより、保育環境における『壁面構成』の現状を把握するとともに、『壁面構成』の意義を考える資料とすることを目的に事例調査を行った。

- (1) 構成の形式は、平面構成のみと平面構成・立体構成の混合構成の2つに分類でき、混合構成の園の方が多かった。
- (2) 構成の内容は、子どもの絵画や作品、季節を取り入れたもの、行事に合わせたものが多かった。
- (3) 壁面構成の主体は、造形は子どもが行い、それを元に保育者（大人）が全体を構成するというケースがほとんどであった。
- (4) 子どもの造形活動の一環として壁面構成を利用している様子が伺えた。壁面構成の起源は元々は装飾であったが、現在では教育的な意味が強まっていると考えられる。

【キーワード：壁面構成，意義，装飾，事例，幼稚園，保育園】

I. 緒言

私たちを取り巻いている外界のうち、私たちと何らかの意味で関わりをもち、何らかの影響をもたらす総体を「環境」と言う。幼稚園・保育所における子どもを取り巻く「環境」には大きく分けて『①物的環境』『②人的環境』『③自然的環境』があるとされる。『保育学の進歩』¹⁾によると、この3つの環境は一概にどの環境が重要であるというわけではなく、総合的または複合的に絡みあいながら保育環境を構成していると考えられている。

このうちの「物的環境」の側面の一つに『壁面構成』がある。『壁面構成』は今日の幼稚園や保育所で重要な物と捉えられており、多くの園・所に施されている。また、それが幼稚園・保育所の園内環境にあるのは当然の事象として捉えられており、『壁面構成』を制作することは保育者の仕事の一部として位置づけられている。現在の壁面構成に関連する雑誌の内容を見ると、現場で制作する際にすぐに役立つような制作方法・アイデア・事例が主な内容となっており、壁面構成の意義や役割などに触れたものは殆ど見られない。また、保護者等、世間一般から見ると壁面構成とは保育者が子どものために制作する、単に「かわいい飾り」「子どもが喜ぶもの」として捉えられ、教育的側面よりも出来栄えや見栄えが重視されているように伺える。

筆者らは、『壁面構成』が施される意義としては、「教育的意義」と「鑑賞・装飾としての意義」があると考えた。しかし、これまでの『壁面構成』に関する文献はほ

んど見られず、『壁面構成』そのものの意義については未だ明らかとなっていない。そもそも『壁面構成』の定義自体が非常に抽象的であり、具体的にどのようなものを指すのか示されていない。

そこで本研究では、まず、現場の『壁面構成』の実態を調べることにより、保育環境における『壁面構成』の現状を把握することを目的に事例調査を行った。

II. 用語の定義

『保育用語辞典』²⁾によると、『壁面構成』とは「壁面にいろいろな情報を掲示し、意味の有る空間を構成すること」と定義されている。

鈴木の研究³⁾⁴⁾によると、明治9年に幼稚園に設置が義務づけられた『黒板書』が『壁面構成』の起源とされている。その後、次第に鑑賞用の絵図を描いて装飾目的に利用されるようになり、一方で、子ども用黒板の導入等により壁が利用されるようになり、これが現在の『壁面構成』につながったと考えられている。

また、『壁面構成』の類似語として『壁面装飾』という用語がある。従来『壁面装飾』と称されていたものは、現在の幼稚園、保育所（園）では『壁面構成』または『壁面製作』と呼称されるようになっている。

以上のことより、本研究では『壁面装飾』と『壁面構成』は同義ではないと考える。また、本研究においては今日の『壁面に情報を掲示し空間を構成すること』の意義を明らかとすることを目的とするため、『壁面構成』という言葉を用いることとする。

* 島根大学教育学部人間生活環境教育講座

** 持田幼稚園

Ⅲ. 調査方法

幼稚園・保育所に施されている壁面構成を写真撮影し、合わせてヒアリング調査を行った。対象は、松江市内の幼稚園2園、保育所4園の計6施設である。

ヒアリングの内容は、園の周辺環境、教育方針、壁面構成に対する園の関心・意欲、構成の仕方、構成の内容等である。

調査日時は、平成25年1～3月である。

Ⅳ. 調査結果及び考察

1. 各施設の壁面構成の事例

(1) N1 保育園

N1 保育園は街中の少し外れにあり、園庭と山が隣接した自然に恵まれた環境下にある園である。

園内の構造は、各年齢別に分けられた保育室がなく、「赤ちゃん部屋」と「子ども部屋」というように大きくくりで分けられ、また各部屋間はガラス扉で仕切られており、両側から互いの部屋を一望でき、行き来ができるような構造となっていた。どの保育室においても壁面構成はなく、園内で見られた装飾は、子どもの描いた絵画や折り紙の造形を貼ったものであった。

遊戯室の壁面は広く、区切られていない。また園児のロッカーが遊戯室に設置されており、それに面して壁がみられる。

図1は遊戯室に掲示されていたもので、このような幼児の作品がロッカーに面する壁や空きスペースにみられた。どの作品を誰が描いたものか見ただけでは分からないが、絵画を鑑賞していると園児から自分が描いた絵を指さしたり、説明をするなどの自己主張が見られた。



図1 遊戯室に掲示された子どもの絵画

(2) M保育所

M保育所は、山や海などに囲まれた場所に立地している園で、自然との関わりが密接にできる。

園内環境では異年齢で保育室を共有しており、0・1歳、1・2歳・2・3歳、4・5歳が合同でクラスが編成されていた。各部屋には園児の名前を入れた誕生日表があった。0・1歳及び1・2歳の保育室には保育者が雪だるまの形に切った画用紙に子どもが紙をちぎって貼った造形があり、2・3歳の保育室には季節をテーマに雪やバラバラの形をした雪だるまがたくさん飾られていた。4・5歳の

保育室になると、子どもが作った造形を基に壁面構成が施されていた。年齢が上がるごとに使う材料も紙類だけでなく素材の異なった材料を組み合わせ造形していた。

図2は玄関に施されていた、3・4・5歳児合同の作品である。画用紙や折り紙のような紙類をはじめ、その他の素材としてはボタン・モール・毛糸などの材料を使い作られていた。また、土台となっている手袋の形や大きさが均等でなかったところや、手袋になされた装飾も同じものがなかったことから、子どもが作った造形であることが伺えた。



図2 玄関ホールに掲示された子どもの絵画

(3) N2 保育園

N2 保育所の周辺環境もM保育所と類似しており、山や海の自然に囲まれた園である。定員数が60名のあまり大きくない園で保育室共有している様子から、のびのびとした雰囲気が伺えた。

N2 保育所では誕生日表の他に季節の『壁面構成』が施されていた。単に貼って終わるという壁面は見られず、構成もしっかりと成されていたところを見ると、構成は保育者がしたことが分かる。しかし、造形そのものは子どもが作ったものばかりである。つまり、子どもの造形を主体として『壁面構成』をしていた。

図3は玄関に施されていたものである。



図3 玄関ホールに施された季節の壁面構成

離れて見てみると形が整っており子どもの造形とは思えないが、近くで見ると細やかな造形で構成されていることが分かる。背景も元々ある紙を使うのではなく、子どもがマーブリング等の絵画技法を施したものを使用し構成していた。

(4) H保育所

H保育所は立地を考えると街中に位置するが、周りは田んぼや住宅が多くあり、街中にありながらも落ち着いた環境であると思われた。

この保育所は『壁面構成』に対する意識が非常に高いと他園から紹介を受けた園であり、実際に『壁面構成』に対する園の方針が確立されていた。例えば、“画用紙はなるべく使用しない”“立体的な構造となるようにする”“定期的に交換する”などである。全8クラスの保育室には保育者が施す構成のアイデアや、子どもの造形活動の跡が盛り込まれたもの、また廊下や遊戯室にも子どもと保育者の共同作業ともいえる『壁面構成』が施されていた。



図4 1歳児の保育室



図5 2歳児の保育室



図6 4歳児の保育室

図4、5、6はそれぞれ保育室に施された季節の壁面構成である。

年齢に応じ、子どもの発達に応じた壁面構成が成され、また年齢が上がるごとに子どもが造形した人形や背景になる草花等が多く使って構成されていた。

図7は廊下に施されていた壁面構成で、絵本をテーマに保育者が構成した壁面だと考えられる。



図7 絵本・童話をテーマにした廊下の壁面構成

絵本の研究は多様な観点からこれまでに数多くされており、例えば“感性を育てる物”や“道徳性の発達を促す物”と考えられ現場で取り入れられている。このことから、絵本を『壁面構成』のテーマとし、絵本の中の世界を表現することも同様に子どもの感性を育み、受容遊びと連動する空間であると考えられる。

また、図8は子どもの生活を映し出したもので、保護者への情報通信の役割をもつ『壁面構成』である。



図8 アルバム・情報発信の役目をする壁面構成

図9は、『壁面構成』と同様の物的環境と捉えることのできる「手作り玩具」である。



図9 手作り玩具の役目も果たす壁面構成

この手作り玩具は、子ども達が使わない時には壁面に飾られている。子ども達は遊ぶ時にそれを自由に使って遊び、遊び終わったら元あった場所に戻すという使い方をしている。H保育所では低年齢児でも楽しめる空間づくりを考えている。玩具を棚に仕舞い込んでしまうと、子ども達にとってはどこにどの玩具があるのかわかりにくい状況も生まれる。そこで、壁面に飾っておくことによって子ども達の興味を引き、子ども達が気軽に手に取って遊べるよう配慮しているという。ヒアリングでは、H保育所では、職員全員がこのような使い方をする玩具も『壁面構成』として捉えているとのことであった。このことから、常に構成物として見るだけの形ではなく、子ども達が使うことを前提として『壁面構成』を計画するというこの形式は、他の園ではまだほとんどに見られない新たな『壁面構成』の考え方となるのではないかと考えられる。

(5) F幼稚園

F幼稚園は車や人通りの多い街中に位置している為自然は少ないが、その分園庭は広く、畑で作物を作ることや築山なども整備し十分遊べる環境が構築されている。

『壁面構成』に関して方針は特に決められておらず、保育室の壁面は各クラス担任に任されている。その為、『壁面構成』に対する考え方や構成の仕方には違いがあるということが明らかとなった。また行事や季節、あるいは保育研究等に合わせて年間通して園全体で替える機会があるようである。

図10は5歳児の保育室に施された季節の壁面構成である。主にストローやペットボトルの蓋などのような廃材品を利用している。子どもの造形したものを使うこと、季節感を大切にすること、そして子どもの日常の遊びを

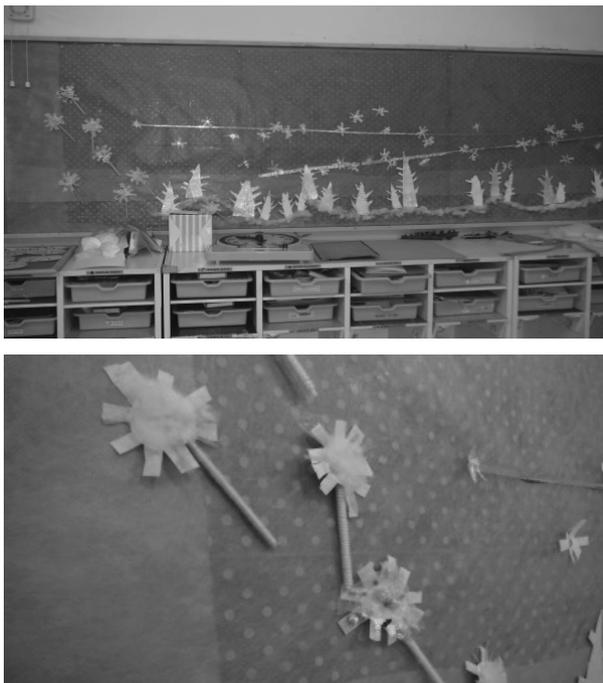


図10 5歳児の保育室に施された季節の壁面構成

テーマにし、日々の保育と関連させて壁面構成をすることが何えた。

(6) K幼稚園

K幼稚園も街中に立地するが畑が周りにあり、また他校種の学校が隣接している為人通りも多い園である。

『壁面構成』は子どもとの関わりが深い担任が主に任されているようである。写真撮影が不可であった為、図を示すことができないがこの時は行事を間近に控えておりそれに向けての『壁面構成』が園全体でなされていた。園の『壁面構成』に関する方針は主に子どもが製作した造形物を使った構成にすることと、保育室の制作は子どもと一番関わりの深い担任が行うようにしているということである。

どのクラスも壁は1面しかなく、誕生日表は全クラスにみられた。年少クラスには子どもが作った雪だるまや雪の結晶を使って構成された季節がテーマになった物と、行事に向けてなされた『壁面構成』があり、このことから四季応じた構成がなされていることが分かった。年中クラスには、壁面全面に子どもの絵画作品が飾ってあり、4つのタイトル別に分けて貼られていたことから、子どもが自分でテーマを選び描いた絵が貼られていると考えられる。年長クラスには年少クラス同様に雪だるまと雪の結晶の季節の『壁面構成』があった。また、遊戯室にはお祭りのタイトルと共に、子どもが作った人形の造形物を主体に『壁面構成』が成されていた。保育者の工夫として、その人形の胸元に制作した子どもの名前を書き誰が作ったものであるかが分かるようにしていた。これは、行事に参加する保護者にも誰の作品かわかるように施した工夫であると考えられる。材料には、画用紙・ボタン・トイレットペーパーの芯・布・毛糸・ビーズ等が使われ、廃材品を上手く利用するだけでなく、子どもの個性が生きるような支援が成されているように感じられた。玄関付近には子どもの写真とそれにコメントを付けた「アルバム」があり、K幼稚園の『壁面構成』には保護者への情報伝達を含むよう考えられていると感じられた。

2. 壁面構成の分類

幼稚園・保育所の『壁面構成』には、園の方針や考え方により力の入れ方に差がみられたが、『壁面構成』そのものの構成の仕方や内容には共通するものがあった。

表1は園別に実態を分類し、まとめたものである。

構成の形式は、平面構成、立体構成の2つに分類した。平面構成は壁面に直接貼っているもの、立体構成は、構成物そのものが3次元の立体的なものに加えて、壁面から離れた飾り付けがなされている場合（天井から吊るす等）も含むこととして分類した。その結果、平面構成のみと平面構成・立体構成の混合構成の2つに分類でき、混合構成の園の方が多かった。なお、立体構成のみの園はなかった。

構成の内容は、子どもの絵画や作品、季節を取り入れたもの、行事に合わせたものが多かった。

表1 壁面構成の分類

園名	定員	園の周辺環境	教育理念	壁面構成に対する園の方針	構成の形式	壁面の内容	壁面構成の主体
N1保育園	90名	街中の少し外れに立地。園庭と山が隣接しており、自然環境に恵まれている。	・体も心も健康でたくましい子ども ・一人ひとりの個性を認めあえる子ども ・0歳から6歳まですべての瞬間を主体的に活動する子ども ・人や動物に自然に愛おしさを感じる心を持つ子ども	子どもの活動を全面に重視するが壁面への関心は低い。	平面構成	子どもの絵画折り紙	造形：子ども／構成：なし
M保育所	80名	山や海などの自然に囲まれ、車通りも少ない。	・健康でたくましい子ども ・優しさと思いやりのある子ども ・よく考えて行動できる子ども ・故郷を大切にする子ども ・まわりの環境に感動する子ども	子どもの造形活動が何えるような壁面を良いと考える。	平面構成	季節の壁面	造形：子ども／構成：大人
N2保育所	60名	山や海が身近であり自然に溢れている。	・たくましく、心ゆたかに生きていく子ども ・元気にあそべる子ども ・やる気のある子ども ・思いやりのある子ども	子どもの活動を主として活動が何えるようなものとなるようにする。	平面・立体の混合構成	季節の壁面	造形：子ども／構成：大人
H保育所	80名	街中に位置しているが田畑や住宅が周辺に多く存在している。	・健康で心豊かに思いやりのある子ども	関心が高く、内容や構成の形式にも拘りが見られる。手作り玩具等も壁面構成ととらえ、幅広い壁面構成を提唱しているようである。	平面・立体の混合構成	季節の壁面 アルバム 絵本	造形：子ども／構成：大人
F幼稚園	80名	街中に位置し、人通りや車通りも激しい。自然が少ない分、園庭は広くて梨山や畑も設備してある。	・新しい時代を切り拓き、社会に貢献しようとする子ども ・豊かな感性を育み、創造的に研究し続ける子ども ・人のかかわりを大切にし、共に伸びていく子ども	園の方針は特になく壁面構成は担任に任されている。その為、各担任によって大切にしている要素が大きく異なると言える。	平面・立体の混合構成	季節の壁面	造形：子ども／構成：大人
K保育園	95名	街中ではあるが、畑などに囲まれる所に位置する。	・かんがえてすすんで行動する子ども ・わらい声あふれるやさしい子ども ・つよい体 元氣いっぱい遊ぶ子ども	行事やその時々々の時期に合わせて壁面構成をなし、子どもと関わりが深い担任が任されて行っている。	平面・立体の混合構成	季節の壁面 行事の壁面 子どもの絵画	造形：子ども／構成：大人

また、壁面構成の主体は、造形は子どもが行い、それを元に保育者（大人）が全体を構成するというケースがほとんどであった。

以上のことから、今回の調査対象の施設では子どもの造形活動の一環として壁面構成を利用している様子が伺えた。『壁面構成』の起源は元々は装飾であったが、現在では教育的な意味が強まっていると考えられる。

IV. まとめ

幼稚園・保育園の『壁面構成』の実態を把握するとともに、『壁面構成』の意義を考える資料とすることを目的に事例調査を行った。その結果、下記の内容が明らかとなった。

- (1) 構成の形式は、平面構成のみと平面構成・立体構成の混合構成の2つに分類でき、混合構成の園の方が多かった。
- (2) 構成の内容は、子どもの絵画や作品、季節を取り入れたもの、行事に合わせたものが多かった。
- (3) 壁面構成の主体は、造形は子どもが行い、それを元に保育者（大人）が全体を構成するというケースがほとんどであった。
- (4) 子どもの造形活動の一環として壁面構成を利用している様子が伺えた。壁面構成の起源は元々は装飾であったが、現在では教育的な意味が強まっていると考えられる。

今日の幼稚園・保育所における『壁面構成』では、以前の保育者が全て行った物としての形はなく、どの園においても子どもの表現した造形物や絵画が主な物として使われ構成されている。また、『壁面構成』として掲示されていたものとしては「季節の壁面構成」「行事の壁面」「絵本の壁面」「アルバム」「誕生日表」「グループ表」などがみられた。

以上のことから、『壁面構成』は子どもの造形活動を支えているものであるだけでなく、子ども自身が自信を持つ経験ができる、またコミュニケーションの機会が与えられる場としても機能しているのではないかと考える。このことから、『壁面構成』の起源は元々は装飾であったが、現在では教育的な意味が強まっているのではないかと考えられる。

引用文献

- 1) 日本保育学会編著：「保育学の進歩」、フレーベル館（1977）
- 2) 岡田正章・千羽喜代子他：「現代保育用語辞典」、フレーベル館（1997）
- 3) 鈴木法子：「壁面構成とは何か1－明治期の幼稚園における壁面構成の萌芽－」、日本保育学会第50回大会研究論文集、p.474-475（1997）
- 4) 鈴木法子：「壁面構成とは何か2－大正期「室内装飾」－」、日本保育学会第51回大会研究論文集、p.114-115（1998）